

# 地域医療連携室との協力

～薬剤師ができる事～

日之影町国民健康保険病院 甲斐裕美

# 「地域医療連携の手引き」令和2年4月20日 Ver.1

「病院完結型」医療から「地域完結型」医療へ

保険医療機関の薬剤師は、地域における自施設の役割を踏まえ  
医薬品適正使用のさらなる推進と関係する保険薬局、他の保険  
医療機関との連携を一層進めなければならない

## 地域医療連携の目的

患者の薬物療法に関する情報を相互に提供し、医療安全の確保に資することである

双方の薬剤師が共通の認識を持ち、患者情報を確実に引き継ぐ

全ての患者を対象として、すべての医療従事者との間で構築

「地域医療連携の手引き」より

# 薬物療法に必要な情報

## 1. 患者に関する情報

基本情報

かかりつけ医・かかりつけ薬剤師

既往歴・輸血歴・アレルギー・副作用歴

生活上の情報（喫煙・嚥下・常用の市販薬・健康食品）

「地域医療連携の手引き」より

# 薬物療法に必要な情報

## 2. 処方に関する情報

処方歴・薬歴

調剤に関する特記事項

(一包化・簡易懸濁法・日常の管理方法)

服薬方法、投与間隔・投与方法に注意が必要な医薬品

治療経過に関わる特記事項

「地域医療連携の手引き」より

## 薬物療法に必要な情報

### 3. その他の必要な伝達事項

病名告知の有無患者の理解度など服薬指導上注意してほしい事項

服用方法や投与間隔投与方法などに留意してほしい医薬品

副作用の兆候、処方変更後の状態など継続して確認してほしい事項

腎機能、TDMデータなど注意してほしい検査値

「地域医療連携の手引き」より

# 地域医療連携のためのツール

## 1. お薬手帳

既往歴・アレルギー歴・副作用歴

受診毎の処方内容などの時系列の記録

他の医療従事者が見ることで薬の重複等の回避が可能

意義を理解されるよう患者への指導が必要

「地域医療連携の手引き」より

## 地域医療連携のためのツール

### 2. 施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）

入退院時に活用

入院時：お薬手帳の情報が十分でないときに依頼

退院時：継続的な薬物療法を支援する目的

## 地域医療連携のためのツール

### 3. 服薬情報提供書（トレーシングレポート）

保険薬局薬剤師からの施設間情報連絡書

即時性は低いものの「処方した医師への提供が望ましい」と

判断された内容を記載

「地域医療連携の手引き」より

## 地域医療連携の導入の実際

連携する施設間の薬剤師双方の意思疎通が重要

日常業務をテーマとする勉強会の開催(きっかけの一つ)

コミュニケーション構築・連帯感を深める

連絡会の立ち上げ

地域医療連携体制の構築・運用に発展

「地域医療連携の手引き」より

# 保険医療機関における地域医療連携の実際

## 1. 外来での運用例

内服薬の記録だけでなく外来投与の注射薬にも

外来化学療法を受ける患者の増加

綿密な情報共有が重要

トレーシングレポートの活用を率先する事で院内の医療従事者との  
連携が円滑になる

「地域医療連携の手引き」より

# 保険医療機関における地域医療連携の実際

## 2. 入院時での運用例

処方薬・副作用・アレルギー情報など薬歴の情報

お薬手帳の情報は補足的

持参薬の確認作業の実施

入院前の施設に情報の確認

「地域医療連携の手引き」より

# 保険医療機関における地域医療連携の実際

## 3. 退院時での運用例

処方薬の内容の変化

入院中の薬物療法、経過について

お薬手帳・施設間情報連絡書の利用

退院時カンファレンスで情報提供

「地域医療連携の手引き」より

入院期間は短縮傾向にある

病床の機能分化が進む

複数の保険医療機関を経由して自宅へ戻る



患者への安全で良質な薬物療法の提供を担保するため

シームレスな地域連携の構築が重要

「地域医療連携の手引き」より

# 地域医療連携を充実させるために

## 地域連携部門の活用

保健医療機関同士が情報のやり取りを行う部署

患者の生活に関する情報等も把握

照会元・かかりつけ病院へ照会

急ぎの情報収集・・・地域連携部門を活用

「地域医療連携の手引き」より

## 教育・研修体制について

### 薬剤師同士の連携に関して（具体例）

トレーニングレポート

ハイリスク薬の管理

無菌調製実技支援

経腸栄養管理

感染管理対応 等々

「地域医療連携の手引き」より

# 当院の取組について